

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和5年(2023年)2月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

2023 **2** 月号 通算213号

熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

わかりやすい診療部紹介 ~循環器内科~	P1
わかりやすい部門紹介 ~5階北病棟、HCU~	P2
ステップアップ研修	P3
八木先生 大変お世話になりました	P3
友達の輪~Relayトーク 第21弾	P4

わかりやすい 診療部紹介

~循環器内科~

循環器内科部長 **平井 信孝** ひらい のぶたか



医師会員の先生方におかれましては、平素より大変お世話になり感謝申し上げます。

昨今、循環器内科の分野では、狭心症や心筋梗塞に対する経皮的冠動脈インターベンション(PCI)や心臓ペースメーカー・植え込み型除細動器の移植、はたまたカテーテルを用いて人工の大動脈弁を挿入する経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、経皮的僧帽弁クリップ術などなど、低侵襲かつ効果的な治療が盛んに行われています。これらは循環器内科だけではなく、心臓血管外科を含めた多職種によるハートチームで適応などが検討されたうえで治療が行われます。また不整脈に対するカテーテルアブレーション治療についても爆発的に症例数が増えているのをご存じかと思えます。

しかしながら当院は循環器内科医師2名体制で、もちろん心臓血管外科もございません。私が赴任してきた当初(なんと19年前!)よりPCIやペースメーカー植え込みは行なっておりますが、TAVIなど遠い雲の上の治療ですし、アブレーションもできません。他のセンター化した巨大病院を横目に見ながら、循環器内科としては大変細々と日々の診療をおこなっているのです。

でもですよ、でも! 派手な分野にばかり目を

奪われてはいけません。上述のような侵襲的治療を受けずとも、適切な薬物治療(optimal medical therapy: OMT)や心臓リハビリテーションで状態が改善する循環器患者さんはたくさんいるのです。とくに超高齢化社会に突入し、心不全を発症する患者さんが激増しています。『あれっ、気がつけば受持の入院患者さん、みんな90歳代だった!』なんてこともしばしばです。このような患者さんは心臓疾患だけではなく、慢性腎臓病や認知症をはじめ、さまざまな併存症をお持ちです。一筋縄ではいきません。リハビリにも時間がかかります。幸い当院はベッドに余裕がございますし、地域包括病棟も持ち合わせておりますので、専門診療科のある病院としては、比較的長い期間ご入院いただくことができます。もちろん冒頭に述べたような積極的治療の適応があれば、熊本大学病院循環器内科をはじめとした高度医療機関へ適宜紹介していますし、逆に自宅復帰が難しいような患者さんは、転院や施設入所のコーディネートを行うこともいたします。また終末期心不全の緩和医療にも積極的に関わっていきたく考えています。

『循環器で入院が必要そうだけど、どこに相談したらいいだろう』などと悩むような患者さんがいらっしゃいましたら、私どもを思い出していただけると幸いです。お気軽にお声かけいただければと思います。

今後とも宜しく願い申し上げます。

『HCU・5階北病棟・手術室 ONE TEAMによる周術期ケアの取り組み』

HCU 兼 本館5階北病棟師長 いわはし ゆきこ 岩橋 由紀子



本館5階北病棟は37床の消化器外科病棟です。多くの周術期の患者さんが入院して頂いています。HCUは4床で、膵臓、肝臓、胃、大腸の術後管理、敗血症ショック、ARDS、2型呼吸不全、心不全の方々の人

工呼吸器管理を行っています。患者さんにとって、「かかってよかった」と思っていただけのように、また、ご紹介頂いた先生方に「紹介してよかった」と思っていただけよう努めております。今回、周術期ケアの取り組みについてご紹介します。

1点目は、手術前ケアの強化です。年々、後期高齢者の手術症例は増加しており、80～90歳台の方の手術は珍しくなくなりました。住み慣れた場に一日でも早く戻れることを念頭に術前ケアを強化しています。フレイル状態にある高齢者は多く、術前ケアのあり方が術後に大きく影響します。当院では、フレイル状態にある方に対して、NST、RSTなどの各チームと連携し、リハビリの強化、栄養状況の改善、呼吸機能の回復、せん妄防止などのケアを実践しています。術後にHCUに入室される方も多く、HCU看護師は、事前に患者さんと面談し、HCUの療養環境や、術後の身体変化について等、患者さんの安心感につながるオリエンテーションを行っています。オリエンテーションを担当したHCU看護師が、手術当日に担当として勤務しておりますので、患者さんより「目が覚めたらあなたでよかった」という、嬉しいお声を頂いています。

2点目は外科病棟恒例の「創傷処置回診」です。外科医師とともに、特定行為研修修了者（外科術後病棟管理領域）2名、感染管理認定看護師、薬剤師と連携しながら365日、術後患者さんの創傷回診を行っています。多職種で術後ケアの方針を

話し合いながら、患者さんにとって最良のケアを提供できるように努めています。特定行為研修修了者は医師とタスクシフト・シェアを行いながら、患者さんのニーズに即応できるようにケアの提供を行っています。

3点目は、看護師のスキルの向上です。当病棟には手術室の経験がある看護師が3名在籍しております。手術室で得た知識を周術期の看護に活かしています。HCU看護師は、院内全体の救急ケアスキルの向上に向けて役割発揮をしています。HCU経験者が一般病棟に多く在籍しており、学び得たフィジカルアセスメントと救急ケアスキルを活かして、リーダーシップを発揮してくれています。当院では、複数のスキルを持つ看護師を「ポリバレンタナース」と言います。手術室スキルを維持できるように、手術室へ“里がえり研修”と称して、定期的な出向研修を行っています。手術室が業務過多になった場合には、すぐに応援が可能です。このようなポリバレンタナースたちの活躍は、今回のようなコロナ禍のピンチの時の救世主となってきており、BCP(Business Continuity Plan)にも貢献しています。

4点目は、周術期ケアに欠かせない手術室看護師との連携です。当院では、手術室看護師が術後の患者さんを病棟まで送迎しています。これは、患者さんをお待たせすることなく、いち早く病室に戻れること、また、手術の経過を把握している手術室看護師が病棟看護師とともに患者さんの手術直後の観察を行うことで、異常の早期発見につながるという患者さんにとってメリットとなる連携を行っています。

このように手術室とHCU・5階北病棟が一体化し、周術期ケアの質の向上に努めています。今後も多くの患者さんに「かかってよかった」と思ってもらえるケアをチームで提供していきたいと思っております。

ステップアップ研修



リンパ浮腫の看護 ～弾性包帯の巻き上げの実践～について行いました

緩和ケア認定看護師 にしむら なおこ
西村 直子



熊本地域医療センター看護部では、2016年より看護師実践力向上を目的に認定看護師によるステップアップ研修を院内職員対象に開催してきました。

今年度、地域貢献活動として、院外の医療従事者の方へステップアップ研修を企画、開催しました。第1回目は、「リンパ浮腫の看護」について基礎編と弾性包帯の巻き上げの実践を、オンライン研修（ZOOM）で行いました。ハプニングもありましたが院外、院内から参加していただき、今後多くの方に参加して頂けるような企画を検討

していきます。
当院では、乳がんなどリンパ節郭清後、数十年後に続発性のリンパ浮腫を発症されるケースや、中には蜂窩織炎を併発して困って、夜間急患センターを受診されたケースもありました。現在、乳腺外科や皮膚科の医師と共に、複合的理学療法①バンテージ・弾性包帯②リンパドレナージ③運動療法④スキンケアを、患者さんや家族、訪問看護師と連携を図りながらニーズに応じた支援に努めています。
今後も認定看護師による地域貢献活動として研修を開催していきます。次回は皮膚排泄ケア認定看護師による「スキンケア」を計画中です。皆様の参加をお待ちしています。

八木先生 大変お世話になりました

地域医療連携室 たけはら かなこ
竹原 佳奈子

顧問 八木泰志先生が、令和4年12月末をもちまして退職されました。
昭和60年に赴任され、平成23年院長退任後も、顧問として長らくご指導いただきました。
私が、30年前に入職した時は、年中、素足にサンダル。怖くてドキドキしておりましたが、時折、温かい眼差しと

優しい言葉をかけていただき、ホッとしたことを覚えております。
今まで、患者さんのために尽くしていただきました。これからは、ご自身のために、ゆっくりとお過ごしください。
長い間、お疲れ様でした。ありがとうございました。



「友達の輪～Relay トーク 第21弾」

川尻尾崎内科 おざき 尾崎 てつ 徹



しおや・内視鏡クリニック、塩屋公孝先生よりご紹介いただきました南区の川尻尾崎内科 院長の尾崎徹です。

私は久留米大学出身で、卒業後は熊本大学第一内科に入局、半年後の初めての研修先がまさに熊本地域医療センターでした。

当時は内科として勤務させて頂き、明石隆吉先生、清住雄昭先生、尾田胃腸内科の尾田恭先生、また、呼吸器内科 瀬戸貴司先生が在籍しておられました。個性豊かでバイタリティーあふれる指導医達がたくさんいらっしゃいました。毎日深夜まで働き半年間で体重が5kg落ちるほど、臨床医としての基本を、熱くご指導頂いたのは、つい先日のことのように。その後は、再春荘病院呼吸器内科、済生会病院消化器病センター、熊本大学病院消化器内科、済生会病院救急総合診療センターで勤務しておりましたが、そろそろ戻って来いということで平成28年より開業医としての道を歩んでおります。

以前は52床あった尾崎病院ですが、病院から診療所に規模を縮小し、19床を維持しておりましたが、平成15年に父が心筋梗塞を起こし、長く継続するためにとうとう無床化になりました。なので本当に地

域医療センターの存在は大きくありがたく、自院の入院ベッドのように、紹介しやすく、その中でもベテラン看護師の電話相談は非常に助かっております。また時々出勤協力医で伺っておりますが、休日及び夜間に患者さんが安心して受診できる病院があるということが心強いです。微力でございますが、出勤協力医続けていきます。

患者の家族としてもお世話になっており、母は膵臓癌で2か月ほど緩和ケア病棟に入院しており、温かいスタッフの皆様を支えられて自宅での看取りができました。また義父も肝臓癌と長年闘病しており、ずっと治療していただいていた、地域医療センターで最期を迎えました。

最後に少々自院の紹介をさせていただきますが、昨年5月に同じ敷地内に新築移転をいたしました。小さなクリニックでもなるべく完結できるように思い切ってCTを導入しました。コロナ禍での計画だったので発熱外来も作りました。胃・超音波検査も可能な限り当日対応できるようにしました。父もまだまだ現役で、往診はもっぱら父が担当してくれており、非常に心強い存在です。

在職同時期には、最近北区で開業された伊藤清治先生と、少し前に国府で開業された田中朋文先生がいらっしゃいます。現在、公私ともに仲良くさせていただいております。次回の友達の輪は新規開業でいささか大変な状況であるとは思いますが、伊藤清治先生をご紹介したいと思います。

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2023年2月27日(月) 19:00～20:00

形式／ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加：ZOOM 会場参加：2階多目的ルーム

申し込み方法／kumamotochiiki@gmail.com (※1) まで (※1) 申し込みアドレス
メールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。
人数制限によりご案内できない場合がございます。
※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。



①症例報告

『免疫チェックポイント阻害剤が著効した再発肝門部胆管癌の1例』

外科 富田 真裕 医師

②特別講演

『消化器がんの手術治療』
CCO：その他

外科 増田 稔郎 医師

熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら
☎096-363-3311 (代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら
※ベテラン看護師が対応いたします！
(平日9:00～17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)
☎096-366-1323

編集後記

Y Relayトークは、共同指導でもお見かけする川尻尾崎内科の尾崎紘先生を継承された尾崎徹先生に書いていただきました。出勤協力医としても来院され、「ベテラン看護師の電話相談」や緩和ケア病棟も高く評価していただき感謝しております。ありがとうございました。

K 娘からだんご汁のリクエスト。今までも作っていましたが、だんごは、きしめんみたいなの！っと、料理アプリのイメージ。私は、小麦粉をこねて、適当にちぎったもの。しかも、娘は味噌、私はすましと味もバラバラ。意見が交わることなく、いつも通りに作りました。

H 去年の目標だったダイエットが達成できなかったのも、とうとうジムに入会しました。月会費がかかるので、サボり癖がある私ですが、もったいない精神でこまめに通えるはず！